

下関の港と海の情報誌

しものせき Port News

2017
Summer

平成29年8月
Vol.5

国土交通省九州地方整備局下関港湾事務所広報誌 しものせきポートニュース

Contents

工事の進捗状況

岸壁延伸工事進捗中

ヒアリ定着防止の対策工事を緊急実施

クルーズ

「コスタ・ビクトリア」が下関港初寄港

イベント

第22回 海の日表彰式

海岸整備中の長府外浦町の商業施設でパネル展示

海岸清掃「リフレッシュ瀬戸内」

下関港紹介⑤

東港地区

ケーソン据付状況（下関沖合人工島「長州出島」）平成29年5月25日

今回は、平成29年5月から8月までの下関港湾事務所に関する主な出来事や話題をお届けします。

工事の進捗状況

岸壁延伸工事進捗中

～長州出島に新たな係船柱が誕生～

平成29年5月25日、下関沖合人工島「長州出島」に13万トン級の大型クルーズ船に対応するためのケーソン※1函を据え付けました。ケーソンの据え付けには、高さ60mのクレーン（700tの重さまで吊り上げ可能）を搭載した起重機船を使用しました。

このケーソンには係船柱（船をつなぐ鉄の柱）が取り付けられ、総トン数が13万トン級（全長約310m）のクルーズ船が係留できるようになります。

今年、8月1日に8万トン級の大型クルーズ船「MSCリリカ」の寄港した際に係留施設として初めて利用されました。

※ケーソンとは、岸壁の本体となる鉄筋コンクリート製の箱のことで、その大きさは長さ10m、幅5m、高さ14m、重さは約550t。



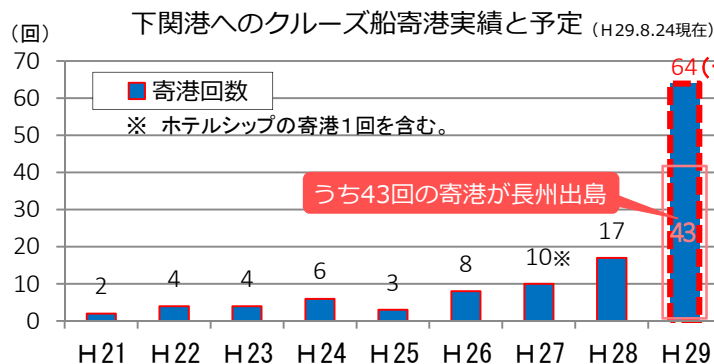
～クルーズ船のさらなる大型化への対応～

平成29年7月20日、西山地区でケーソン6函を製作している工事現場をテレビ局が取材しました。このケーソンは、クルーズ船の大型化対応のために、長州出島の岸壁延伸の基礎となるもので、高さは14mあります。

同取材班は、製作用足場を利用して高さ14mのケーソン頂上部まで登り、ケーソンの空洞部をカメラで撮影し、その空洞部の必要性などを当事務所職員へインタビューして確認していました。

なお、今年9月には、これらのケーソン6函が据え付けられ、岸壁の延長は既設300mより110m長い410mとなります。

平成30年3月には工事が完了し、現在係留可能な13万トン級よりさらに大きなクルーズ船も係留できる岸壁が完成する予定です。



長州出島に寄港する大型クルーズ船の主な航行ルート



平成29年 下関港に初寄港した大型クルーズ船



H29.3.28初寄港
総トン数：102,587t 全長：272.2m
乗客定員：2,716名 喫水：8.2m



H29.4.9初寄港
総トン数：72,458t 全長：246.5m
乗客定員：1,814名 喫水：7.82m



H29.6.13初寄港
総トン数：75,166t 全長：252.91m
乗客定員：1,928名 喫水：8.0m

ヒアリ定着防止の対策工事を緊急実施

平成29年7月28日から、下関港で外貨貨物を取り扱っている岬之町埠頭、細江埠頭、長府埠頭、新港地区岸壁背後コンテナヤードの4箇所において、ヒアリの定着を防止するために舗装のすき間などを埋める対策工事を緊急的に実施しました。

コンテナ置き場のくぼみ箇所はアスファルト舗装の補修作業を、舗装のすき間箇所は加熱アスファルトの流し込み作業を行い、ヒアリ定着の危険性箇所への対策を終えました。



アスファルト舗装補修作業



加熱アスファルト流し込み作業

クルーズ

「コスタ・ビクトリア」が下関港初寄港

平成29年6月13日、下関港の長州出島にイタリアのコスタ・クルーズ社が運航するクルーズ船「コスタ・ビクトリア」（総トン数75,166トン）が初寄港しました。6月11日に中国の大連を出港し、下関港と佐世保港へ寄港する5泊6日のツアーです。

初寄港に伴い、同船は下関市役所吹奏楽団の演奏で迎えられ、山口県や下関市の港湾関係者より記念品や花束の贈呈が行われました。

約2,400名の乗客たちは約60台のバスに分乗して、下関市内の長府庭園や赤間神宮などを観光するツアーへ出かけていきました。

夕方には岸壁で下関の特産品販売が行われ、乗客たちは下関の土産品を買って乗船しました。

出港の際には、下関平家踊保存会による平家踊りと平家太鼓の演舞に見送られ、次の寄港地である佐世保港へ向けて出港しました。



「コスタ・ビクトリア」寄港時の岸壁の全景



下関市役所吹奏楽団の演奏による出迎えの様子



岸壁での特産品販売の様子



平家踊りと平家太鼓の演舞による見送りの様子

イベント

第22回 海の日表彰式

国土交通省九州地方整備局では、海をきれいにする一般協力者に対して、その功績をたたえるために「九州地方整備局長表彰」を行っております。

今年は7月25日に下関市の亀山八幡宮儀式殿で第22回海の日表彰式を行いました。

今回は、これまで多年にわたり下関市の安岡海水浴場周辺の清掃美化奉仕活動に取り組まれてきた、山口県立下関工業高等学校・山口県立下関工科高等学校が表彰されました。

さらに、表彰式の最後に受賞者からの謝辞を同校の生徒会長の坂本陸君が行い、式典後には、表彰状を伝達した下関港湾事務所長との記念撮影を行いました。



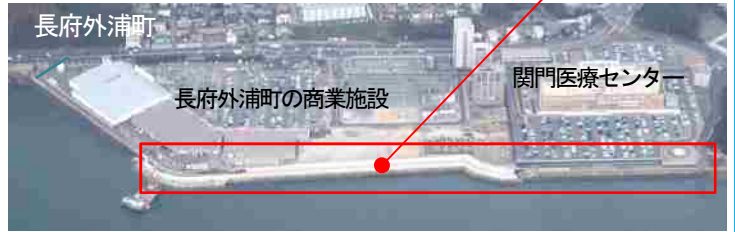
「海の日」表彰式の様子

海岸整備中の長府外浦町の商業施設でパネル展示

平成29年8月5日、下関市長府外浦町にある商業施設の駐車場で開催されたイベントにおいて、地元自治体などの展示スペースが設けられ、当事務所からは「下関港海岸整備」と、7月の「九州北部豪雨への対応」を紹介した防災に関するパネルを出展しました。

イベント会場の周辺の海岸沿いでは、現在、当事務所が下関港海岸の護岸整備を進めており、この整備内容を紹介するパネルや、過去の長府地区での高潮災害による被災状況パネルを展示して、イベントに来場した多くの方々にご覧頂きました。

来場者の中には、平成11年の台風18号による高潮災害を経験された方などもおられ、職員によるパネル説明にも熱心に耳を傾けて頂きました。



海岸清掃「リフレッシュ瀬戸内」

平成29年7月2日、下関市の長府浜浦町地先の自然海浜で「リフレッシュ瀬戸内」海岸清掃が行われました。この清掃活動は、瀬戸内海沿岸の107市町・11府県・国土交通省9地方機関から成る「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」の環境事業の一環として、平成5年より実施されており、24回目となります。

清掃活動は、前田下関市長の挨拶にはじまり、下関港湾協会、下関港運協会、下関海の日協賛会、地元関係者、国・同市職員など34団体の総勢350名が参加しました。

なお、今回集められたゴミの量は、約3トンにもなり、清掃後にはきれいな海岸に生まれ変わりました。



下関港紹介⑤ 東港地区

東港地区は、平成元年から埋立や再開発により整備され、水族館（市立しものせき水族館 海響館）や遊園地（はい！からっと横丁）が立地し、関門海峡の優れた景観と自然を活かした魅力的な海辺空間を形成しています。

また、5万総トン級の客船が寄港できる水深12mの旅客船専用岸壁「あるかぼーと岸壁」も整備されており、「ばしふいっくびいなす」などのクルーズ船が寄港する際には歓迎行事や物販等、様々なイベントにも活用されています。

このように、

東港地区は、市民や観光客が多く訪れることで港の賑わいや安らぎを創出する場所となっています。



国土交通省 九州地方整備局 下関港湾事務所

〒750-0066 山口県下関市東大和町2丁目29-1
 TEL(083)266-3291 FAX(083)261-1123
 HPアドレス <http://www.pa.qsr.mlit.go.jp/shimonoseki/>

「海と港の総合窓口」
 全国共通フリーダイヤル **0120-497-370**
受付時間：9:30～12:00と13:00～17:00(土・日・祝を除く)

ご意見・ご感想をお聞かせください。

